法政大学グローバル教養学部と（Faculty of Global and Interdisciplinary Studies:GIS）スーパーグローバル大学の今

日本の大学のグローバル化、改革を大きく推し進めると期待されているスーパーグローバル大学創成支援事業。採択から丸2年、各スーパーグローバル大学では、着実に構想の実現を進めています。すべて英語による授業とリベラルアーツ教育で実績のあるグローバル教養学部（GIS）をはじめとし、大学全体での取組を加速する法政大学。昨年度からGISの学部長を務めるダイアナ・コー先生は、香港で高校と大学を過ごし、アメリカの大学院で学位を取得したグローバル人材。GISの歴史とともに日本語が上達してきたと語る先生に法政大学のグローバル化、教育改革についてお聞きしました。

法政大学
グローバル教養学部長
ダイアナ・コー先生
（*Diana Khor*）

Profile
1960年香港生まれ。香港大学修士課程（M.Phil.）、アメリカのスタンフォード大学大学院博士課程修了（Ph.D）。法政大学国際交流センターのフェローシップを得て来日、1996年より法政大学非常勤講師。その後第一教養部専任講師、法学部教授を経て、2008年、立ち上げから関わったグローバル教養学部教授に就任。専門は社会学、女性学、ジェンダー、セクシュアリティ。近年はアジアにおける家族の比較研究を行っている。

GISの今と、今後の課題

74％と93％。これはアメリカ大学連盟の調査（2013年）によるある数字です。

74％は、アメリカの企業トップ300名のうち、リベラルアーツ教育を推奨する人の割合。93％は、就職時に、批判的思考力、的確なコミュニケーション力、複雑な問題解決力といった、リベラルアーツ教育の成果として最も期待される力が大事であると答えた割合です。また別の調査では※1、フォーチュン500（Fortune 500）のリーダーのうちの3分の1が、リベラルアーツの学位を持っているとしています。また、2015年の本学の「卒業生アンケート調査」でも、GISの学生の93％が4年間で身につけることができたと思われる能力として自己判断能力をあげています。ちなみに幅広い教養は92・9％、英語能力は100％、コミュニケーション能力は90・5％、課題発見・解決能力は85・7％で、いずれも15学部中1位でした。

GISは8年前、100％英語による授業とリベラルアーツ教育が特徴の、国際教養系の学部としてスタートしました。元々は文、経済、国際文化の三学部を横断する英語プログラム、IGIS（Institute of Global and Interdisciplinary Studies: グローバル学際研究インスティテュート）で、スタートして2年後に学部になりました。法政大学の中では最も小さい学部ですが、こうした経緯から、学部横断、大学全体のグローバル化を牽引するには最適なポジショニングということで、GGJ（"Go Global Japan"：経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援）や Super Global Universities：スーパーグローバル大学創成支援（以下SGU）といった国の支援事業※2に貢献しています。学生の就職先は海外進出している日系企業や外資系が多く、最近では海外の有名大学院への進学も増えています。

近年の一番大きな変化は、SGU採択後の2015年に、定員が約1.5倍の100人になったこと。当然、入学者の英語力にバラつきが出るため、今春からは、入学時にTOEFL®によるプレースメントテストでクラス分けを行い、下位クラスでは英語の必修単位を増やしました。またカリキュラムをより充実させるため、科目群も3から4、4から5へと増やしています。入学者の内訳は、約50％が海外経験3年以上で、残りがいわゆる純ジャパです。もっとも、近年増加している高校での1年間の海外留学経験者をどちらに入れるかで、数字は10％ほど変わってきます。

入試では、学生の多様性を促進するために、2016年現在、2013年から始めた9月入学において、海外や国内のインターナショナルスクール卒業生に配慮して、自己推薦入試の出願期間を1月と3月へ前倒ししました。また国内でもIB（International Baccalaureate：国際バカロレア）認定校で English A（Literature または Language and Literature）を履修したIB Diploma取得予定者は海外枠としました【下表参照】。

8年間見てきて、GISの学生に最も欠けていると感じるのが、現在の欧米の授業の主流である長い論文を読んで、それについてディスカッションする際の前提となる読解力の訓練。GISも英語での講義や宿題の量などはほぼ欧米の大学と変わりませんが、リーディングの量だけはかないません。というのもGISの時間割は日本の大学にあわせていて、アメリカやイギリスのように、一つの科目につき、同じ週の中で講義日とディスカッションの日、もしくはチュートリアルの日を設けることができないからです。これでは長い学術論文を読んで議論する訓練はしにくい。深い理解を得るには同じ科目の授業を週2、3回受ける方が効果があると思いますので、本学も含めて、日本の多くの大学での週1回の授業の場合は工夫が必要だと思います。

ただGISの場合、専任の14名の教員の半分は外国籍で、みな欧米流の教育に慣れ、教育熱心ですから、日本の時間割の中でも、いかに海外の大学のよさや最新の教育方法を取りこめるか工夫しています。私も、入門・中級の授業では比較的短い文章を、上級の授業では学術論文をテキストにして、半期15回の授業を一括りとして捉え、その中で4回は徹底したディスカッションができるようにしています。

小さな学部の最大の特徴である少人数教育を維持していくことについては、教員間の意見は一致しています。また、段階的に幅広い学術分野の知識・教養を身に付けながら、深い専門性を磨くことを目指すという特徴についても、カリキュラムを充実させ、履修条件などを工夫しながら将来も守っていきたいと思っています。

日本では多くの学部が、専門と教養を分けている関係で、リベラルアーツ教育を特徴とする学部では専門性が深められないとの先入観を持つ受験生も少なくないかもしれません。しかし実際は、3年次で始まるゼミは専門性の習得を目指しています。またこの4年間では、海外や国内大学院の学際的なプログラムだけでなく、国際関係や言語学、ビジネスや社会学といった専門的なプログラムへ進学する卒業生も出ています。加えて2016年度からは、各科目群に幾つかの科目を1、2年次における選択必修として設定し、3、4年次のゼミや上級科目を通して、専門性を磨けるようになりました。もちろんGISではそれにとどまらず、ゼミとは違う分野の上級レベルの科目を履修し、さらに幅広く、しかも深い知識を身に付けることも奨励しています。いずれにしろ、リベラルアーツ教育自体の良さを守りながら、周囲、特に受験生に対して、どのようにその良さを伝えていくべきかは、私たちの課題であると思っています。

※1 Oregon State Universityの学長による：http://www.huffingtonpost.com/edward-j-ray/the-value-of-a-liberal-arts-education_b_3647765.html?

SGUの今

今年はSGU採択3年目、GGJの最終年度となりますが、GGJに関しては当初の目標をほぼクリアしたと思います。

学生の海外への送り出しについては、法政大学はその数ではすでに全国4位※3になっていますが、SGUでは、GGJに比べてさらに力を入れていて、海外協定校を精力的に増やすとともに、送り出し先も欧米や東アジアだけではなく、東南アジアへも広げています。歴史的に法政大学はアジアとの結びつきがあったわけですから、この流れはむしろ当然であり、今後も地域を限定せずに、真のグローバル化が目指されるべきだと思います。

今秋から始まる海外高校とのの最新の高大連携事業、「アジアの高校生のための短期スカラシッププログラム」（略称：HOSEI-SSP）もその一環です。参加するのは本学部と、今秋からスタートした経営学部経営学科のGBP（Global Business Program）と人間環境学部のSCOPE（持続可能社会共創プログラム、いずれも英語だけで卒業できるプログラム）です。HOSEI-SSPでは、ベトナム、タイ、インドネシア、マレーシア、カンボジア、ラオス、ミャンマーの高校で英語プログラムを学び、日本への留学を希望する高校生を募集します。定員は10名。まずは1月に日本へ招待し、特別授業などを行うことからスタートします。

法政大学は、グローバル化に向けた教育方針として、少人数教育への移行と能動的自主的学習の仕組みの構築を掲げています。そして、そのための教育環境改革の一環として、いかに多くの学生にグローバル体験をしてもらうかに力を入れています。それを受け、国際インターンシップ、海外フィールドワークを取り入れ、単位認定したり、長期休暇期間中に、海外大学の教員を招いての集中講義等を始めたりする学部も出てきています。これらの取組は、長期留学希望者のトライアルにも最適です。

GGJをきっかけに始まったERP（英語強化プログラム）に加えて、今春からはこれまで各学部に置かれていた英語による授業を公開し、「グローバルオープン科目」として学部を超えて受講できるようになりました。また「グローバルポイント」というものを設けて、日頃から学生にグローバル意識を持ってもらうためのインセンティブを与えるような取組も始まっています。

私が法政大学で教えるようになったのは1996年。かつての第一教養部のライティング講座を担当していましたが、当時は留学のための講座も少なく、留学希望者の多くは私の講義の受講者で、中にはニューヨークで活躍している漫画家のミサコ・ロックスさんや世界的に有名なジャズ音楽家の上原ひろみさんなどもいました。当時と比較すると、今の本学のグローバル化への対応には隔世の感があります。アジアとの連携が進んだのも大きな違いです。私たちは世界の共通語として、英語を使わなければなりませんが、英語を使うことイコール欧米至上主義、というわけではありません。今、私が自分の研究を通じて感じているのは、アジアなど英米以外の国・文化が主体となって学問を進めていくことが重要だということ。これからは欧米中心の価値基準に覆われていた世界に、アジアをはじめとするそれ以外の地域の価値基準が存在感を増してくる。これこそ、真のグローバル化であり、近未来を解く鍵もここにあるのではないでしょうか。法政大学、GISで、こうした変化に対応できる資質や力を養ってほしいと思います。

※2 GGJは2012年から2016年、SGUは2014年から10年間。

※3 2014年度留学生派遣数（16単位以上認定）：全国4位（出典：朝日新聞出版2017大学ランキング）

高校生へのメッセージ

日本人の学生は発信する力が弱いとよく言われますが、反面、とてもよく考えています。授業中に発言を求めた時には返事のなかった学生が、感想リポートではしっかりした意見を書いているようなこともあります。また同じ日本人学生でも海外経験のある者は総じてよく発言する。つまり、慣れが大半を占めているのではないでしょうか。要は訓練あるのみだと思います。

法政大学のグローバル系入試（抜粋）

※実施学部・出願資格等の情報は一部のみ記載しております。詳しくは「2017入試ガイド」及び11月上旬に法政大学ウェブサイトにて公開予定の「一般入学試験要項」を必ずご覧ください。

経済学部　英語外部試験利用自己推薦特別入試

募集人員	10名（経済学科2名、国際経済学科6名、現代ビジネス学科2名）
出願資格	下記、英語外部試験資格をいずれか1つ以上取得していることなどの条件を満たす者 TOEFL iBT®54点以上　S10以上、W10以上 IELTSband5.0以上　S4.0以上、W4.0以上 TOEIC®+SW790点以上　S100点以上、W100点以上 英検準1級以上
選抜方法	第1次選考:書類審査、第2次選考:筆記試験（小論文）・面接

国際文化学部　SA自己推薦特別入試（現役生のみ）

募集人員	20名
出願資格	「ドイツ・フランス・スペイン・ロシア・中国・韓国いずれかの言語圏の文化に強い関心を持ち、スタディ・アブロード・プログラム留学に際して、いずれかの言語圏を希望する」などの条件を満たす現役生
選抜方法	第1次選考:書類審査、第2次選考:面接

文学部哲学科・英文学科、経済学部国際経済学科、人間環境学部、キャリアデザイン学部国際バカロレア利用自己推薦特別入試

募集人員	各学科・学部とも若干名
出願資格	「国際バカロレア資格取得者(DP〔ディプロマ・プログラム〕でフルディプロマを取得済みの者)または取得見込みで見込み点(predicted grades)が出願時に26ポイント以上(入学時までにフルディプロマ取得が必要)」などの条件を満たす者
選考方法	第1次選考:書類審査、第2次選考:学部・学科により異なる

GIS(グローバル教養学部)　自己推薦入試（12月入試）

募集人員	30名
出願資格	以下の英語能力を有する（以下のいずれかの基準を満たすこと）などの条件を満たす者 S基準: 「TOEFL iBT®88点以上（ただしWritingスコアが21点以上に限る）。 IELTS（Academic Module）band 6.5以上（ただしWriting bandが5.5以上に限る）。 English A: Literature または English A: Language and Literatureを履修し、IB Diplomaを取得。 A基準: TOEFL iBT®76点 以 上。IELTS（Academic Module）band 6.0以 上。 TOEIC®820点以上（日本国内の受験結果に限る）。 実用英語技能検定（英検）準1級以上。 B基準: 評定平均が4.0以上であり、上記いずれかのスコアに準ずる英語力があると学部が認める者:提出書類と面接（英語）、小論文（英語）により総合的に判断する（TOEFL®、IELTS、TOEIC®、英検のいずれかの証明書を、基準を満たしているかどうかにかかわらず、必ず出願時に提出すること）。
選抜方法	第1次選考:書類選考（調査書、志望理由書等）、 第2次選考:出願資格により異なる

GIS(グローバル教養学部)　自己推薦入試（秋学期入学）

入学時期	秋学期
募集人員	10名
選考の種類	●国外選考Ⅰ期　●国外選考Ⅱ期　●国内選考
出願資格	国外選考Ⅰ期、Ⅱ期 「TOEFL iBT®80点以上、IELS(Academic Module) band 6.5以上のいずれか一つの英語能力を有する」などの条件を満たす者 国内選考 「TOEFL iBT®76点以上、IELTS(Academic Module) band 6.0以上、TOEIC®820点以上(日本国内の受験に限る)、実用英語技能検定(英検)1級または準1級のいずれか一つの英語能力を有する」などの条件を満たす者
選抜方法	国外選考Ⅰ期・Ⅱ期 書類審査（調査書、志望理由書等） 国内選考 第1次選考:書類審査（調査書、志望理由書等） 第2次選考:面接（英語）・小論文（英語）